

## ロシア小話（その2）

### 10. 自動車

日本海対岸のウラジオストックの街では日本の中古乗用車を多く見かける。年式は古いが現役で活躍しているこの光景を見ると筆者もあやかりたい気持ちだ。ロシア製の車両はといえば大型リムジン、工事用車両、そして軍用車と戦車。どうして乗用車は作らないのか調べたところ、旧ソ連では車両生産高は鋼材、セメントといった工業用資材と同じように重量で表示されたので目方が軽い車を作ると生産実績の数字が上がらないことになるから、製造工場の生産高競争に不利だからとのことであった。

### 11. ウクライナ問題

このところウクライナ問題をマスメディアはあまり掲載しなくなったことに大統領は不満である。領土問題は自分の手中に入れてしまえば、周りがいくら騒いでも頬被りというのがロシアの伝統的政策であることはよく知られている。北方4島も然り。EUまたは米国から厳しく糾弾されることは外交関係に緊張感を持たせる最大の好機である。ある日クレムリンの最高幹部会終了後、大統領は国防大臣を執務室に呼び、国防大臣がクライナの軍事紛争の早期解決に奔走していることを叱責した。現下のロシアの情勢は内政に問題続出なので対外的な緊張感を保ち、国民の目を外交に向けることが国家の指導者の重要な使命だと述べ、中国や韓国の指導者を見習うよう訓示した。

### 12. プーチンとメルケル

プーチン氏とメルケル氏の二人このところ世界政治の舞台上で脚光を浴びている。ある国際会議の休憩時間に二人は会場の隅でロシア語（通訳なし）での対話、天然ガスと先端技術の交換の密約をヒソヒソと話していた。80年前には不可侵条約を締結したがその後、その条約を破棄し、第2次大戦に突入、そしてお互いに大量の犠牲者を出した交戦国の首脳同士。今やEU内で断トツの経済力を背景に米英の英語圏は無視して、このようにロシアへ接近しようとするしたたかな女史と元KGB（国家安保委員会）の幹部との虚々実々の駆け引きは続いている。

### 13. スワップ

モスクワ大学で国際金融論を講ずるイワノフ教授はロシアのグローバル経済化と共に時節柄人気教師の一人である。その息子であるコンスタンチン君は現在5年次ながら父親の血筋を引き継ぎ頭脳明晰、記憶力、分析力ともに抜群である。ある日コンスタンチン君は父親に質問した。「ネエ スワップって何」。瞬間教授は先週末の「夜の情事」を知られたかと慌てたが、そこは学者先生、落ち着き払って「異種通貨の預け合いで、・・・」と説明した。この坊やは説明を一言も漏らさず聞き取り「それなら隣のガリーナお婆さんがうちへきて泊まってゆき、僕のお母さんがお隣へ泊りに行くのと似ているね」と。この息子の正確な理解力に満足するやら、慌てるやら。

#### 14. 知的労働者

共産党独裁時代ソ連時代では医師、大学教員などの高度の知的職業の待遇は工場の一般労働者と同じであった。市場経済、開放経済が推進された結果両者の格差は広まりつつあるが、依然として西欧諸国と比べると両者の格差は小さい。ロシアの医療技術は予想外に高く、しかも治療費は国際基準比廉価である。これを聴いた日本の厚生労働省の高官はロシアから医師を招き寄せ、僻地の医療環境向上させることを検討したいと述べた。

15. ロシア第二の都市サンクトペテルブルクは「北方のベニス」と呼ばれている。この欧州への窓口を志向する都市の構築工事はピョートル大帝によって1703年に着手された。当時泥沼の地に都市を建造することは困難な事業であった。沼地を埋め立てるため大量の土砂・岩石を必要としたため考案したのが、すべての市内への入構者は規定の石を搬入すること、馬車で入構するものは既定の5倍の石を搬入することとした。この条例順守のため市地域の入口に検問所を設置した。さて法律が施行された初日馬車が大量の石を搭載して検問所に近づくと馬車の轍は沼にはまり、身動きできない馬車の列が続いた。かくして市内区域への馬車の侵入は不可能であることが判明。まず市街地の外側の道路建設を行うこととした。

#### 16. 記念塔

ロシア人は記念碑、凱旋門、銅像を通りの目立つところに作るのが大好きだ。〇〇戦争勝利記念、△△運河開通記念など。どうして◇◇戦争敗戦記念の石碑がないのか、ガイドに質問したところ、それは勝利者側が立てるものなのでロシアが敗戦の場合はロシアにはないとのことであった。それでは日露戦争勝利記念塔を日比谷公園か新宿御苑に立てなければならないとある政治家は目下奔走しているとのこと。

#### 17. ウオッカ

ウオッカは世界的に知られたロシアの大衆地酒でアルコール度は約40パーセントで、今でも根強い人気を誇っている。しかしこのウオッカで心身を破滅にさせた市民が後を絶たない。政府の担当部局の幹部が消費抑制の方策会議を開催した。かんかん譁々一日かけて議論を闘わしたが結論はなかなか出ないまま次回へ繰越となった。会議の後、慰労と親睦を兼ねて宴会を開催することになった。会議の飲物の注目を取ったところ、会長がウオッカの